

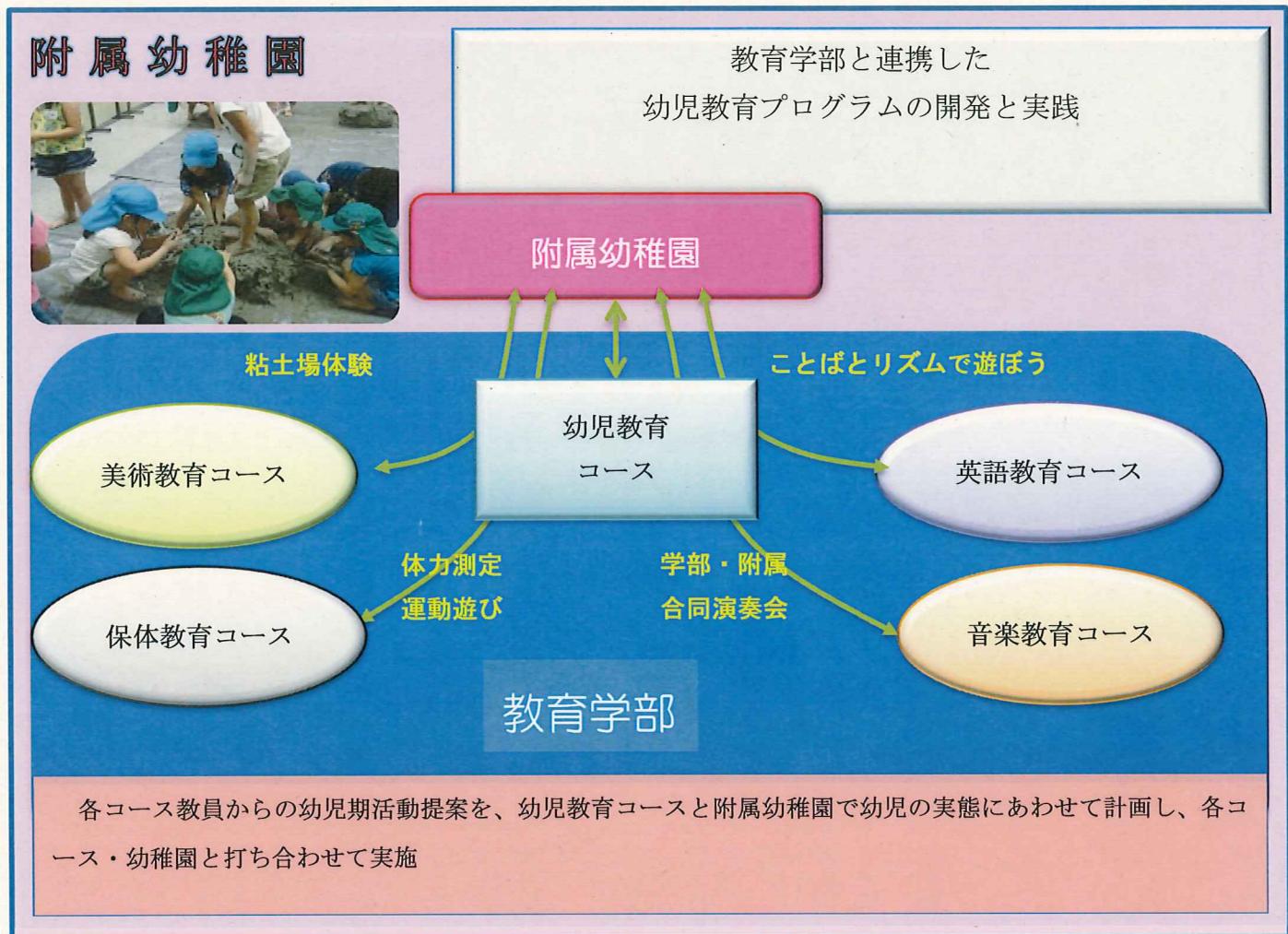
# 校園名：高知大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒780-0915

電話番号：088-822-6417

記載日：28年5月9日 記載者：谷脇のぞみ 記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：



めざす子ども像は「よく考えて行動する子ども」であり、主体性を重んじ、自分で考え、判断し、行動に責任をもつことができる子どもを育てるよう心がけている。

園庭が広く、のびのびと遊ぶことができる環境がある。木の実や葉、草花等、自然物を使って遊んだり、砂や赤土などと全身でかかわって遊んだりしている。

大学とは車で20分ほどの距離にあるが、連携した保育（粘土・絵の具・体育・音楽・食育・生活リズム等）を積極的に行っている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査については、附属小学校中学校に進学した子どもについて、附属小学校中学校の担任にアンケートに答えてもらいう状況の把握に努めている。その情報は幼稚園が持っている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 大学採用者が多いため、転出者は少ないが、近年転出した教員は、教育センターに3名、県教育委員会幼保支援課に1名。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

**大学の附属ならではの取り組み**

- 大学（園から車で20分ほど離れている）まで、大学のバスに乗って年長組が出かけていき、大学内に作った粘土場で、全身を使って、粘土の感触を楽しみながら遊ぶ（年5回）。大学としては院生の研究対象となっている。



大学に年長組が出かけて行って  
美術の教員や学生と一緒に行つ  
ている粘土場体験



- 体育の教員と学生が園に来て、体力測定（25m走 ソフトボール投げ 幅跳び 反復横飛び 握力一両親の者も測定）を行い、各園児の測定結果をわかりやすくまとめて、家庭に返している。小学校に進学しても継続して測定する計画である。
- 美術の教員と一緒に、全身を使って絵の具とかかわる活動を行っている。幼児教育の部屋全面を

- 白い紙で覆い、ローラーやスポンジ、手足などで、絵の具のぬたくりをして、遊んでいる。
- ・音楽の教員と学生によるミニコンサートを誕生会でもらっている。
  - ・食の専門の教員と一緒に偏食について研究するなど、食育を行う計画である。
  - ・サッカー部の学生が、サッカー教室をしてくれている。
  - ・県立美術館に出かけていき、絵を見たり、美術館の裏側（巨大なエレベーターなど）の見学をしたりなどする（美術の学生や、幼児教育の学生と一緒に）計画を進めている。
  - ・大学の教員に専門の立場から、保護者向けに講話をしてもらっている。
  - ・医学部の教員に健診（内科・耳鼻科・歯科）をしてもらっている。
  - ・農学部の畑に本園用のさつまいもを植えてもらい、秋の遠足の際に掘らせてもらったり、牛と触れ合う機会をつくってもらったりしている。



#### 秋の遠足（農学部 芋ほり 牛との触れ合い）

- ・園内で珍しい虫を見つけた時など、農学部の教員に送り、調べてもらっている。
- ・地震の専門の教員に保育者や保護者向けに講話をしてもらったり、実際に園内を見てもらって、安全性について確認してもらったりしている。

#### 地域のモデル園としての取り組み

- ・研究発表会を数年に 1 回行い、保育を公開し、学年別分科会、全体会（研究発表）、講演会を行っている。県内の幼稚園・保育園・認定こども園をはじめ、中四国の園からの参加も少なくない。
- ・研究発表会を行わない年度は、年 3～5 回の公開研究保育や公開事例研を行っている。学年ごとに保育を公開した後、外部講師とともに保育について語る会をもち、その後、その日の保育についての研究協議を持っている。また、県内のどこの園でも作成することになっている資料（8 月に県教育委員会幼保支援課主催の幼児教育理解推進事業に提出する事例）について検討する園内研を開催している。
- ・附属幼稚園の副園長は歴代、高知県国公立幼稚園・こども園会の研究部長を担当している。
- ・附属幼稚園の副園長は、高知県教育センター主催の新規採用保育士・幼稚園教員研修の講師を務めている。
- ・附属幼稚園の副園長は、高知県教育委員会幼保支援課主催の幼児教育理解推進事業の分科会の助言者を担当している。
- ・附属幼稚園の副園長は、高知県幼保研修運営協議会委員を引き受けている。
- ・附属幼稚園の副園長は、県内の公立幼稚園の公開研究保育や事例研の講師助言をしたりしている（年 4～6 回）。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：（一般論ではなく、できるだけ、具体的な状況が理解できるように記載してください）

- ・県内の幼稚園にとっては、保育や環境を見に来て、自園の保育の参考にしたい存在。また、研究や保育、指導案の書き方などについて悩んだり、困ったりしたときに、相談できる存在。
- ・未就園児のいる地域の保護者にとっては、子どもを連れて来て、広い園庭でのびのびと遊ぶことが楽しみな存在。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

#### 1. 教育実習について

附属学校園がなくなり、公立と私立だけになると、教員に熱心に指導されての実習ができなくなる。附属以外での実習の状況を聞くと、勤務時間中はほぼ園の手伝いをさせられ、ほとんど指導もないまま、勤務時間後に自力で指導案を書いているという園も少なくない。附属は実習校園であるという使命を自覚し、実習に合わせた日程調整もしており、実習保育中はもちろんのこと保育時間後も丁寧に実習生に指導を行っている。

#### 2. 大学との連携について

附属はやはり、大学の附属であるからこそその存在意義があり、研究に打ち込んだり、大学の先生の力を借りたりコラボしたりして、公立ではできないことができる環境がある。公立校にいたとき、「研究をしたい」と言ったら、「学校は研究をするところではない。教育をするところだ」と言われたことがある。附属ももちろん教育・保育が大事であるが、研究を中心に進めることができている校園だと考える。今後、子どもや保護者が今以上に多様化していく、教育が進めにくくなることが予想される。そんな時にこそ、附属が率先して、先進的な研究を行い、子どもの実態に合った教育内容や環境などをアピールしていくことが必要となると考える。附属学校園の校園長が県からの専任校園長になったところも数校園あるが、だんだんと公立化していく、県教育委員会の指導下にある公立校園のひとつになっていっているようで、危惧される。

#### 3. 研究成果（教育課程等）の公開について

幼稚園では、小学校以上の学校とは異なり、教科書がない。そのため、本園で研究し作成した週日案や指導計画・教育課程・研究紀要などは、他の園でも参考にされている。特に高知県は保育園が全体の8~9割をしめており、指導計画を作成せずに、ベテランの先生から見て学ぶといった方法で保育をしているところも少なくない。また、私立幼稚園はこの少子化の現状下で、幼稚園教育要領にのっとった保育というよりも、園児獲得のため保護者のニーズに応じた保育をする傾向がある。そんななか、文部科学省の望んでいる理想的な保育をめざすことのできる附属幼稚園は貴重な存在であると考える。

#### 4. 各都道府県の核としての附属校園について

各都道府県にほぼ1校園はある附属校園は、「何かあったら附属へ行って相談しよう」という都道府県の核となる存在でありたいと思い、日々保育や研究に打ち込んでいる。四国という地理環境から考えると、高知市に郡部の先生達が来る時でも宿泊が必要な交通網である状況で、他県と教員養成課程を分担することは地理的にも無理であると考える。